

国公立大前期日程の受験状況

河合塾
2020/2/26

文部科学省は、2月25日より実施されている国公立大の前期日程の受験状況を発表した。1日目第1時限目の受験対象者数は226,916人。このうち受験者数は211,480人で、欠席者は15,436人となった。欠席率は6.8%と前年よりも高くなった。＜図表1＞は過去5年の欠席率の推移である。国立大の欠席率は緩やかな上昇傾向にあるが、今年は例年に比べ上昇幅が大きくなった。また公立大では国立大以上に欠席率の上昇幅が大きく、前年から1.1ポイント上昇となった。

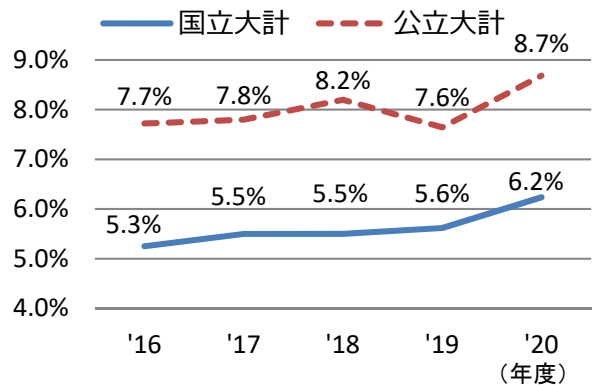
大学別にみると、最も欠席率が低かった沖縄県立芸術大では、欠席者はいなかった。そのほか、例年欠席率の低い東京大、東京芸術大、一橋大、京都大などが、今年も上位に挙げられている。

一方、最も欠席率が高かった大学は新見公立大で21.0%となった。次いで上越教育大、東京都立大、鳴門教育大などが続く。欠席率が1割を超えた大学は163大学中41大学で、昨年の25大学に比べ大幅に増加した。

前期日程を欠席する背景は、主に二点挙げられる。一点目は、併願した私立大へ合格して受験を取りやめるというケースである。こうした動きは都市部の公立大に多く見られる。例を挙げると、東京都立大や横浜市立大は首都圏の難関私立大との併願者が多く、例年欠席率は1割を超える。

二点目は、推薦・AO入試に合格したために、併願した前期日程を欠席するというケースである。センター試験を課す推薦・AO入試に出願する受験生は、合格発表日が2月上旬以降となるため、一旦一般選抜にも出願することになる。そのため、センター試験を課す推薦・AO入試の募集人員が多い大学では、一般選抜の欠席者が多くなる傾向にある。例を挙げると、新見公立大は入学定員180名に対して、センター試験を課す推薦入試の募集人員は50名(27.8%)、上越教育大は入学定員160名に対して、推薦入試の募集人員は50名(31.3%)となっている。両大学の欠席者のうち、相当数は推薦入試での合格者であると推測される。

＜図表1＞国公立大 前期日程欠席率推移



※文部科学省資料より

●国公立大前期日程1日目第1時限目の受験状況 (文部科学省資料より集計)

＜全体状況＞

	2019年度				2020年度			
	受験対象者数	出席者数	欠席者数	欠席率	受験対象者数	出席者数	欠席者数	欠席率
国立計	185,625	175,197	10,428	5.6%	174,660	163,763	10,897	6.2%
公立計	55,694	51,436	4,258	7.6%	52,256	47,717	4,539	8.7%
国公立計	241,319	226,633	14,686	6.1%	226,916	211,480	15,436	6.8%

＜欠席率の低い大学＞

大学名	受験対象者数	出席者数	欠席者数	欠席率
1 沖縄県立芸術	147	147	0	0.0%
2 東京工業	3,642	3,607	35	1.0%
3 東京	8,644	8,551	93	1.1%
4 宮城教育	483	477	6	1.2%
5 一橋	2,427	2,394	33	1.4%
6 東京芸術	1,399	1,377	22	1.6%
7 神戸市看護	147	144	3	2.0%
8 京都	7,280	7,126	154	2.1%
9 京都市立芸術	415	406	9	2.2%
10 東京学芸	1,777	1,735	42	2.4%

＜欠席率の高い大学＞

大学名	受験対象者数	出席者数	欠席者数	欠席率
1 新見公立	396	313	83	21.0%
2 上越教育	306	242	64	20.9%
3 東京都立	2,360	1,894	466	19.7%
4 鳴門教育	192	155	37	19.3%
5 愛媛県立医療技術	178	144	34	19.1%
6 浜松医科	403	334	69	17.1%
7 宮城	642	535	107	16.7%
8 兵庫教育	258	216	42	16.3%
9 徳島	2,488	2,084	404	16.2%
10 横浜市立	1,867	1,570	297	15.9%